

「児童生徒を支援する力を高める校内研修に関する研究」＜3年次＞

～教育相談的な手法を生かした「校内研修実践資料（中学校版）」の開発を通して～

福島県教育センター 指導主事 小松はる佳

福島県教育センター 長期研究員 遠藤 寛之

1 研究の趣旨

本研究の目的は、「校内研修実践資料」の開発を通して教員及び教員組織の児童生徒を支援する力を向上させることにある。

平成22年度に実施した「教員のメンタルヘルスに関するアンケート」の調査から、生徒指導力や人間関係を円滑に結ぶスキル等を身に付ける必要性、教員集団が組織として機能することの重要性が確認できた。そこで、教員個々の力量向上と教員集団の組織力向上の両方の機能を併せ持つ校内研修に着目し、教員が児童生徒を支援する力を個人かつ組織として高められるよう研究を進めてきた。

平成23年度は児童生徒を支援する力を高めるために必要な教員の力（知識・スキル・態度）を選定し、その力を効果的に高める「校内研修実践資料」（講義案、配付資料、プレゼンテーション資料）の考案を行った。

平成24年度は、児童生徒を支援する力を高めるために必要な教員の力の分析を進めるとともに、学校において教員自らが校内研修を進めて児童生徒を支援する力を高める「校内研修実践資料」（実施・進行案、演習資料等）づくりを行った。その資料を用いて研究協力校で校内研修を試みたところ、研修のねらいに応じた力が高まったことが確認された。研究の成果については「校内研修実践資料（小学校版）」としてまとめた。今後の課題として挙げたのは、どのようにして「校内研修実践資料」を普及し活用してもらうかということであった。

そこで、本年度は「校内研修実践資料（中学校版）」の開発を通して、教員及び教員組織の児童生徒を支援する力を向上させることに加えて、昨年度の課題として挙げられた「校内研修実践資料」の普及のためのPR及び進行者の育成を行っていく。

2 研究の概要

(1) 教員自身が児童生徒を支援する力を高める研修についての理論研究及び「校内研修実践資料」の考案

- ① 児童生徒を支援するために必要な教員の力（知識・スキル・態度）の構成内容の分析
- ② 校内研修の進行者や研修者である教員側に立つての「校内研修実践資料」の考案

(2) 研究協力校（中学校）における実践と検証

- ① 研究協力校（2校）における「校内研修実践資料」（案）の検証と修正
- ② 校内研修を実践につなげるための研修だよりの発行
- ③ 校内研修の有効性を検証するアンケート調査の実施

(3) 「校内研修実践資料」活用促進のための情報発信

- ① 「校内研修実践資料」活用に関する質問の受け付け（FAX用紙作成とWebアップ、質問への回答）
- ② 「校内研修実践資料（中学校版）」の教育センターWebサイトへの掲載
- ③ 所報「窓」や「研究紀要」を通じた研究成果の発信
- ④ 教育相談系専門研修及び、管理職研修などにおける「校内研修実践資料」の紹介、配布

(4) 「校内研修実践資料」活用のための進行者の育成

- ① 専門講座（教育相談実践講座）における「校内研修実践資料」を活用した代表者による実習
- ② 専門講座（教育相談実践講座）での実習終了後の各学校での研修者による実践

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 協力校の教員が進行者となり、「校内研修実践資料（中学校版）」を活用した満足感の高い校内研修を行うことができた。その後、検証と改善を行った「校内研修実践資料（中学校版）」をWebアップできた。
- ② 研修会で資料の紹介と配付、専門講座において進行者育成のための実習と実習終了後の実践を行うことができた。

(2) 課題

- ① 「校内研修実践資料」活用に関する質問の受け付けも含めた、更なるPRや普及に努める必要がある。
- ② より精選された「校内研修実践資料」となるように、利用者の声も取り入れながら資料の見直しを図っていく必要がある。